

木の文化を育む⁽⁵⁷⁾

唯一無二のペン作り〜人々の想いをつなぐ〜

(イメージフォーム／ペンづくり工房・雪うさぎ)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

〇はじめに

私たちは日々の暮らしの中で共に過ごした時間や想いに安心感と愛情を覚えます。そうした背景には歴史や文化、さまざまな物語があり、人々が愛着を持つ「想い」があります。とりわけ使用する人の心が豊かになる道具には実用性を超えた魅力があり、大切に受け継がれてきたモノには大きな価値が見出されます。

〇木の可能性を活かして

ペンづくり工房・雪うさぎ（福島市）代表 佐々木 信幸さんは、一級建築士として四十数年のキャリアがあります。「家づくりネットワーク」にも所属し、「地域の木材を使った家づくり」を通して、森を育む地産地消の家づくりを実践してきました。建築物のみならず家具に至るまで、木の可能性を活かしたモノづくりに取組んできた佐々木さんは、十五年ほど前から趣味で「木のペンづくり」を始めました。制作を重ねるその奥深さを知り、世界中の銘木や地

元福島産の木を使用したオリジナルのペンを一本一本丁寧に手作りしています。天然の木を無塗装で仕上げているため、経年変化が楽しめます。厚さ2cmの板状に製材し、素材の含水率が13%以下になるまで自然乾燥して加工するため、制作におよそ二年の年月を要します。

〇想いをつなぐ

ペンづくりの依頼者は、さまざまな想いを胸にこだわりの木材を持って佐々木さんのアトリエを訪れます。地元の梅や柿、りんご等の果樹の木のほか、古い住まいを解体した際、記念に取っておいた梁材や大切にしていた御神木、形見の表札など、依頼される材もさまざまです。ペンづくりに適している材は広葉樹ですが、依頼される材の中にはペンづくりに適さない材もみられます。佐々木さんは依頼者の想いを汲み取り、想いを込めてペンづくりに励んでいます。

〇唯一無二のペン

建築家の仕事は、単に「モノ」としての建築をつくるだけでなく、建て主と共に「想い」をカタチにしてゆきます。佐々木さんはペンづくりにおいても、依頼者の「想い」に寄り添いカタチにすることで唯一無二のペンを制作しています。「こだわりの木材の背景には物語があるので、依頼者の想いや笑顔が伝わってくる。その人を想いながらカタチにしてゆくのがとても楽しい。」と佐々木さん。

〇まとめ

人が暮らしの中で過ごした時間や想いをカタチにした道具には、その土地の風土や誰かを想う優しさがあります。作り手と使い手が共に「想い」をカタチにし、未来に残してゆくことで、家や道具と一緒に物語も



ペンに加工



完成品：天然木のため色味・模様・風合いがすべて異なる



自然乾燥



依頼を受けた木を製材

大切に受け継がれることを願います。